

# 令和4年度事業報告

## I 概要

現代日本においては、高齢化が進んでおり、60歳以上のシニア世代の役割も増加しています。また、生涯現役という考え方が浸透し、自分らしい働き方を模索するようになり、生きがいについても、特に重要な問題となっています。人生100年時代と言われる現代においては、長期的な人生設計が必要とされ、生涯現役を実現するために、ライフワークバランスや社会参加の促進、健康寿命の延伸などが重要な課題となっています。一方で、シニア世代が働くことで生み出される社会的価値を再評価し、その貢献を社会全体で受け入れることが求められており、そのためにも、シルバー人材センターは支援体制を充実させ、シニア世代が自分らしい人生を送ることができるような社会を実現する必要があります。さらに、ライフスタイルが多様化する中で、個人が自己実現に向けて自由に選択できるようにするために、様々な分野において、ニーズに沿ったサービスの提供が求められます。60歳以上のシニアが生きがいを持って、健康的かつ充実した人生を送ることができる社会づくりに向け、シルバー人材センターの様々な取り組みが期待されています。

こうした中、コロナ禍のために活動の制約を余儀なくされた一年間でしたが、当シルバー人材センターでは会員の社会参加、社会貢献、生きがいの充実を図るとともに、地域社会へのニーズに応えるために、会員増強と就業機会の確保を積極的に推進しました。

その結果、請負事業の契約額は前年比4.4%、派遣事業の契約額は前年比5.4%とそれぞれ増加し、会員数も56名増となるなど、着実に事業の拡大を図ることができました。

また、令和3年に発足した女性部会「がマダム1000」の積極的な活動により、就業ニーズの多い女性会員の比率も前年の44.8%から46.4%へと大きく向上するとともに、新たな就業機会の確保として、「地域型訪問サービス事業」、「小中学校の草刈り」、「ハンドメイド事業」など、シルバー事業の活性化に取り組んできました。

令和4年度の事業報告の詳細につきましては、以下のとおりです。

## II 活動報告

### (1) 就業機会の確保と組織的提供事業

「就労意欲のある会員の就労支援」の理念の基に、会員の就業ニーズと地域企業等のニーズを把握・分析し、就業機会の拡大と組織的提供に向けた取り組みを行いました。

○会員の多様な就業ニーズに応えるため、商工会議所の会報にチラシを折込み、市内の事業者に対してシルバー会員の活用を促進しました。また、新たに、地域型訪問サービス事業と小中学校の草刈り作業を受託し、就業機会の拡大を図りました。

- 新たな独自事業としてハンドメイド事業を立ち上げ、入園入学グッズの製作委託や販売会を開催しました。
- ホームページ、毎月発行の事務局だより及び公式ラインを活用し求人情報を提供するとともに、毎月職員による新規入会会員の就業マッチング会議を開催し効率的な就業機会の提供に努めました。

## (2) 指定管理事業

- 「生きがいセンター」の指定管理者として、新型コロナウイルス感染症への予防対策を徹底し、利用者が安全・安心して活動できるように情報の収集、周知を行い、地域の活性化のために、人づくり・地域づくりの拠点としての役割を果たしてきました。
- 「生きがいセンター」の指定管理者として、度重なる利用制限の情報を的確にお知らせし、マスクの着用、手指消毒、三密回避などの新型コロナウイルス予防対策を徹底するとともに、利用者のみなさんにも検温や、施設利用後の除菌作業の協力をしていただくなど、コロナ禍における「生きがいセンター」の利用促進に努めました。
  - 地域住民と施設利用者とのコミュニケーションを促進し、地域の活性化を図るため、7月には「生きがいセンターまつり」を、10月のシルバー普及月間には「シルバーオータムフェス」を、田原市シルバー人材センターとの協賛により開催し、地域づくりに貢献しました。
  - 「生きがいセンター」の運営の改善を図るため、利用に関するアンケート調査を実施し、安全・安心な利用環境の整備と改善に努めました。

## (3) 有料職業紹介事業

- 企業の求人ニーズを、シルバー会員および地元の高齢者のみなさんに情報提供することにより、求人と求職のニーズをマッチングさせ、本人が直接雇用を希望する場合や、直接雇用が適切であると判断される業務については積極的に有料職業紹介により対応しました。
- 企業訪問による就業開拓や、ハローワークの求人情報の活用などにより企業のニーズを幅広く収集し、直接雇用が相応しい業務については職業紹介という方法で会員や地元の高齢者に情報提供をすることで、新たに5件の職業紹介を行いました。

## (4) 労働者派遣事業

- 高齢化や労働力人口の減少が進行する中、シルバー人材センターが人手不足分野や、現役世代を支える分野における労働力の担い手となることを自負し、労働者派遣事業の拡大を図ってきたことにより、新型コロナウイルス感染症による雇用状況の悪化の中でも、順調に事業拡大をすることができました。
- 地域と会員の就業ニーズのマッチングを図るために、市内の事業者 1,622 社を対象にニーズ調査のアンケートを実施するなどして、就業開拓を推進したことにより、新規受注件数 15 件、契約金額においては、前年度比約 560 万円の増加と、順調

に業績を図ることができました。

- 発注先企業ならびにセンター職員に対して「適正就業ガイドライン」の周知徹底を行い、就業の適正化を図りました。

#### (5) 知識及び技能の付与を目的とした講習の実施事業

会員や地元の高齢者の関心が高い業務分野の知識、技能に関する研修や講習会を実施し、将来的な就業の機会に繋げていくためのスキルアップを援助することで、生きがいの充実、社会参加の促進を図りました。

- 新規事業「地域型訪問サービス事業」の開始に伴い、会員及び一般市民向けの「家事援助技能講習」を6月と12月の2回開催し29名が受講しました。また昨年度開始した「妊婦から子育て期の家事支援事業」についても、フォローアップ研修を実施し、20名の会員が受講しました。

- コロナ禍において、研修や講習会等の開催が制限される中、会員および一般市民向けに「メルカリ教室」や「草刈り講習会」を開催、会員向けに「健康麻雀教室」や「上映会」及び「女性のための生涯学習講座」を開講し、会員の生きがいの充実、社会参加の促進を図りました。

#### (6) 調査研究事業

事業運営の向上、拡大を図るため、先進シルバーへの視察研修による事例研究を積極的に行うとともに、「月刊シルバー人材センター」などを参考に、新規事業参入へのノウハウや、独自事業への情報収集に努めました。

- 総合的に事業運営に優れている柏崎市シルバー人材センターを視察訪問し、独自事業であるシルバーふれあいサロン「やまゆり」や農園事業「みんなの農場」の運営手法や業務のDX化などを教示していただきました。

- 就労的コーディネーター事業の一環として、対企業向け、市民向け及びシルバー会員向けのニーズ調査をそれぞれ実施しました。

- 10箇所センターの視察を受け入れるとともに、それぞれのセンターの活動状況をヒアリングし、当センターの事業運営に役立つ情報を得ることが出来ました。

#### (7) 相談事業

センターの円滑な事業運営と活性化を図るため、入会希望の相談、既存会員の就労に関する相談会などを定期的に、また随時行いました。

- 入会希望者を対象に、新型コロナウイルス感染予防対策を講じたうえで、毎月第2火曜日に完全予約制での「お仕事説明会」を、第3木曜日には「会員登録会」を開催し、シルバー人材センター事業の周知を図りました。また定例の説明会に加え、女性限定、業種を特定した説明会やWeb入会の活用など、様々な切り口で入会希望者との相談の場を設けたことで、令和4年度は56名の新規会員増という成果を得ることができました。

- 毎月最終火曜日に女性限定のサロン「がマツ茶」を開催し、女性会員が気軽に参加できる場所として多くの利用があり、さらに女性会員の相談窓口としての機能も果たしました。
- 発注希望者からの相談については、Web受注チャンネルの活用やチラシ等の配布により、事業活動の周知を図りました。
- 退会抑止策として、3月に役員が電話による就業状況等の聞き取り調査を行い、その結果に基づいて、未就業理由の分析、会員継続のための対応策を検討し、就業率アップと会員の増強に努めました。

#### (8) 安全・適正就業推進事業

シルバー会員が健康で安心して就業できるように、広報誌を通じて、作業中の事故防止、就業途中の交通事故防止などの啓発をすることにより、安全意識の徹底に努めました。

- 令和4年度は、剪定、草刈りの安全パトロールを強化し事故の発生防止に努め、草刈り作業での飛び石事故など損害賠償事故が1件の発生で、前年度に比べ4件減少しました。
- 会員の熱中症対策として、会報を通して熱中症の注意喚起をするとともに、冷却ネッククーラー「マジクール」を配布しました。また、剪定、除草に従事する会員の虫刺されによる重篤化を防ぐために毒吸引機「ポイズンリムーバー」を支給しました。
- 「安全・安心なシルバー人材センター」を目指して、当センターでの事故発生状況を安全対策部会や衛生委員会で報告、対策の検討を行うとともに、全会員を対象に安全標語の募集キャンペーンを行い、安全意識の向上を図りました。

#### (9) センターの活動等について周知を図る事業

シルバー人材センター事業の理念、活動を地域住民ならびに関係者に広く周知するため、ホームページやチラシ、インスタグラムによる活動紹介や、地域イベントの企画や市主催イベントのボランティアに参加し、積極的に普及啓発活動に取り組みました。

- 定例の「お仕事説明会」に加えて、女性限定や業種を特定した説明会などを開催し、状況に応じた臨機応変な事業説明を行ったことにより、会員拡大を図ることができました。
- コロナ禍のため規模を縮小しましたが、地域住民との交流のために例年開催している「生きがいセンターまつり」や「シルバー・オータムフェス」を実施し、地域住民とのコミュニケーションを図りながら、シルバー活動の楽しさや事業の啓発活動に努めました。
- 女性部会「がマダム 1000」による「スマホ教室」、「ガーデニング教室」、「料理教室」、「ハイキング」など、種々の活動状況を、ホームページやインスタグラムで紹介することにより、活動の周知を図りました。

○会員を募り、市主催のイベント「オレンジトライアスロン」や「うどんサミット」へボランティア参加したり、独自事業「焼き芋販売」を蒲郡南部小学校や中央小学校へのボランティア協力や、市主催のイベント「ごりやく市」や「竹島ストリート」に出店し広く展開することにより、市民に対してシルバー活動のアピールが出来ました。

(10) その他センターの目的を達成するために必要な事業

高齢者の社会貢献活動を通じた健康で生きがいのある生活の実現と、地域社会の福祉の向上と活性化に貢献するため、蒲郡市からの委託事業である「高齢者介護支援ボランティア事業（まごころDEちよいボラ）」を推進しました。

○「ちよいボラ」の技術研修については、計画どおり年 3 回実施することができました。コロナ禍によるボランティアの受け入れ制限もありましたが、新規会員も 6 名増加し、活動も 91 件の実績がありました。